



8月27日 逍遙

前回お話した天ぷら屋さんの御主人に、先日、私は思い切って、この子の事（店先で暮らしているハチワレ顔の黒と白のぶち猫の事）を聞いてみました。

この子の名前は「すず」。8歳の女の子（但し、人間に置き換えれば40歳代後半のレディということになりますね）。お店の御主人は、まるで家族を紹介するように、とても丁寧に教えてくれました。ハチワレの顔は末広がりであることから、商家では縁起がいいとされていると聞くので、きっとこのすずさんも、このお店にとって大事な看板娘なのかもしれません。

そして、すずさんの、穏やかで人間好きな甘えん坊のようで、それでいてちょっぴりマイペースっぽい雰囲気は、すずさんの毛色に黒色が多いせいかな。そして何より、このすずさんの魅力は、その眼差し。とても物静かながら、時空を超えた何かを熱く語りかけてくるような、そんな不思議な力を持っているのです。ちょうどローマのコロッセオで見かけた、あの黒猫のように。

ここ城山ゾーンで出会った「すずさん」の目には、何が見えているのだろう。

次回「城山の逍遙猫 すず、のころ」

「その目には何が
見えているのだろう、のころ」